

テックドクターによる現地診断 (長崎県南島原市有家大字尾上)

令和3年8月14日に国道57号194k880付近(有家町大字尾上)の山側斜面より土石流が発生した。当該地の基盤岩は劣化が進行している恐れがあり、豪雨時にはさらなる土石流の発生が予想されるため追加調査及び対策工の検討が必要と考えられることから、学識者による現地診断を実施した。

出席者:九州大学大学院 三谷教授、長崎大学大学院 蔣教授

● テックドクターによる調査

土石流の状況



現地調査状況



講評状況



【今回の土石流について】

・大雨により、標高615m付近の遷緩線より斜面が崩壊し、立木を巻き込んだ土石流が発生し、道路に流出した。

【対策方法について】

- ・流失土砂をせき止め、土砂内部の水を排出する土砂防護柵を設置する。
- ・流出土砂のボリュームを防護柵でせき止める場合、柵高を高くすると計算上モーメントなどが大きく作用するため、柵高を低く設定して延長でせき止めることも検討する。